

地域課題
と
関係人口
ニーズ

<地域の課題>

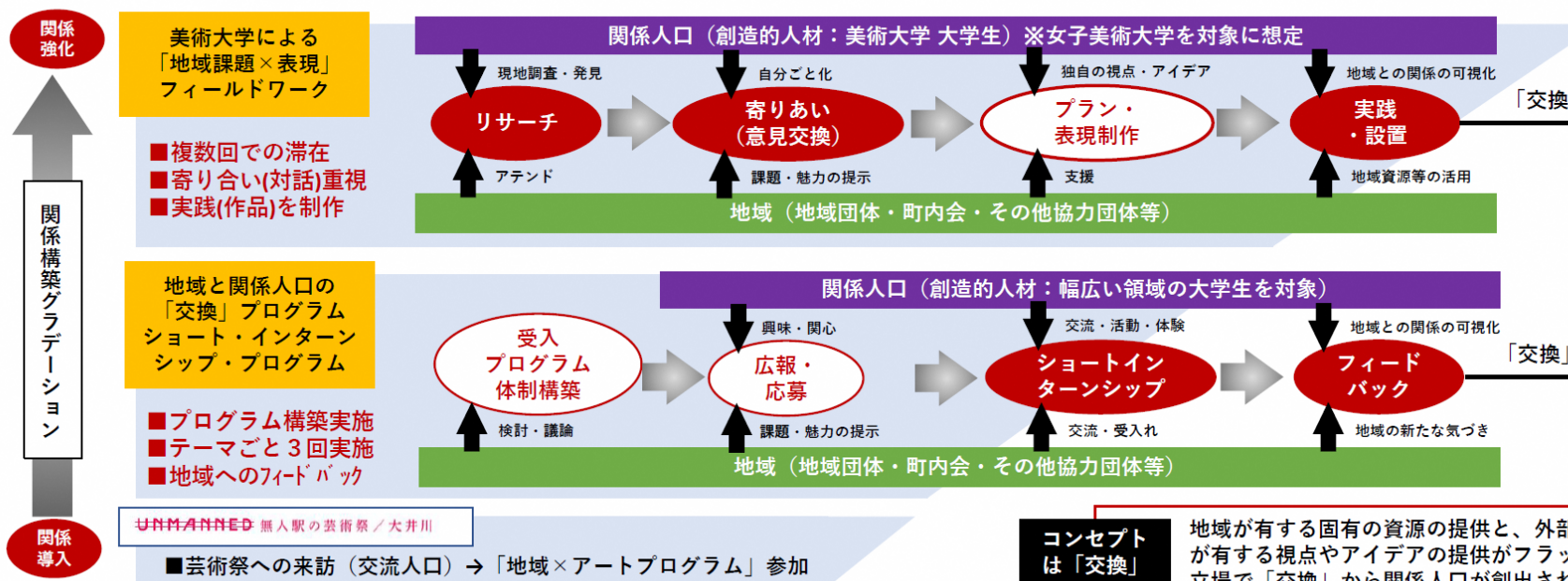
- ・各地域(集落)は茶畑の里山景観とともに豊かに暮らす人々の営みや手つかずの美しい風景
- ・集落の多くが少子高齢化とともに地域保全、地域コミュニティの維持に向けた課題

<関係人口のニーズ>

近年のコロナ禍においてフィールドワーク活動の機会が減少が大学等の課題であった。昨今の状況の変化により、実践の場、経験の場、新たな学びの場を広く地方に求めている傾向がある。

- 美術学生による「地域課題×表現」フィールドワーク
- 地域と関係人口の「交換」プログラム～ショート・インターンシップ・プログラム

令和5年度実施事業：「地域と県外大学生等の“交換”から創出される関係人口プロジェクト」



モデルの
概要

主な成果

フィールドワークにおいては、大学側と地域側、相互の取り組みへの理解を強く感じた。80日(のべ人日)の受け入れでのリサーチから実践での取り組みの濃度やの広がり、関係人口モデル事業の複数年の成果といえる。ショートインターンシップにおいては、地域団体の円滑な受け入れ姿勢を強く感じた。国内外アーティストや、県内外の芸術祭サポーター(関係人口)との交流と活動を実践できた。

地域課題
と
関係人口
ニーズ

<地域の課題>

- 18歳のエリア外流出(高等教育の場の不足)
- Uターンを阻む環境(若者コミュニティと、魅力ある活動の不足)
- 地域事業所の採用難(若者が望む仕事の不足)
- 就職ガイダンス等への集客難(情報伝達手段の不足)

<関係人口のニーズ>

- 高校生の55.3%が「家族や知人のいる故郷で暮らしたい」
- 高校生の26.8%が「働く場所に魅力がない」

『帰ってきたくても居場所・友人・望む仕事がない』

県外等で暮らす「地元出身の18歳～28歳」をターゲットとしたオンラインプラットフォームを設置し、地元からダイレクトに情報提供する仕組みを構築。また、サークル(若者コミュニティ)、ビジネス創造カレッジ(魅力ある仕事のプランニング)等の活動を作り、プラットフォーム等で参加者を募集。その他、プラットフォームを通じては、地元バイト、交流会、Uターン促進補助金等、各種情報を発信。

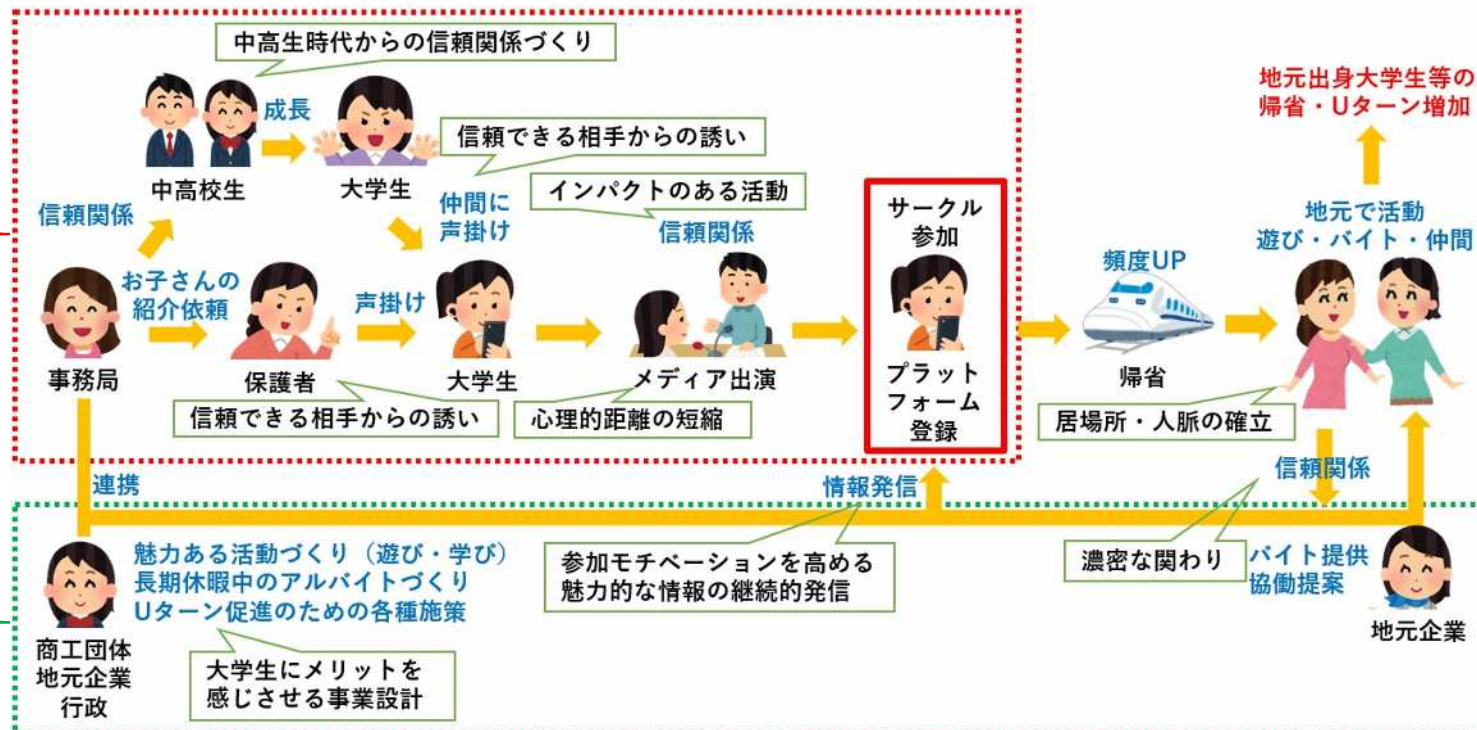
①地元から地元出身大学生等へダイレクトに情報発信するオンラインプラットフォームの構築

②中高生のサークルへの声掛け、高校へのリーフレットの配布などを通じて、プラットフォームへの登録促進

③若者のコミュニティとなるサークルの運営

④学生が参加したくなる魅力ある事業づくり

⑥学生と地元企業の信頼関係構築と、協働での仕事づくり



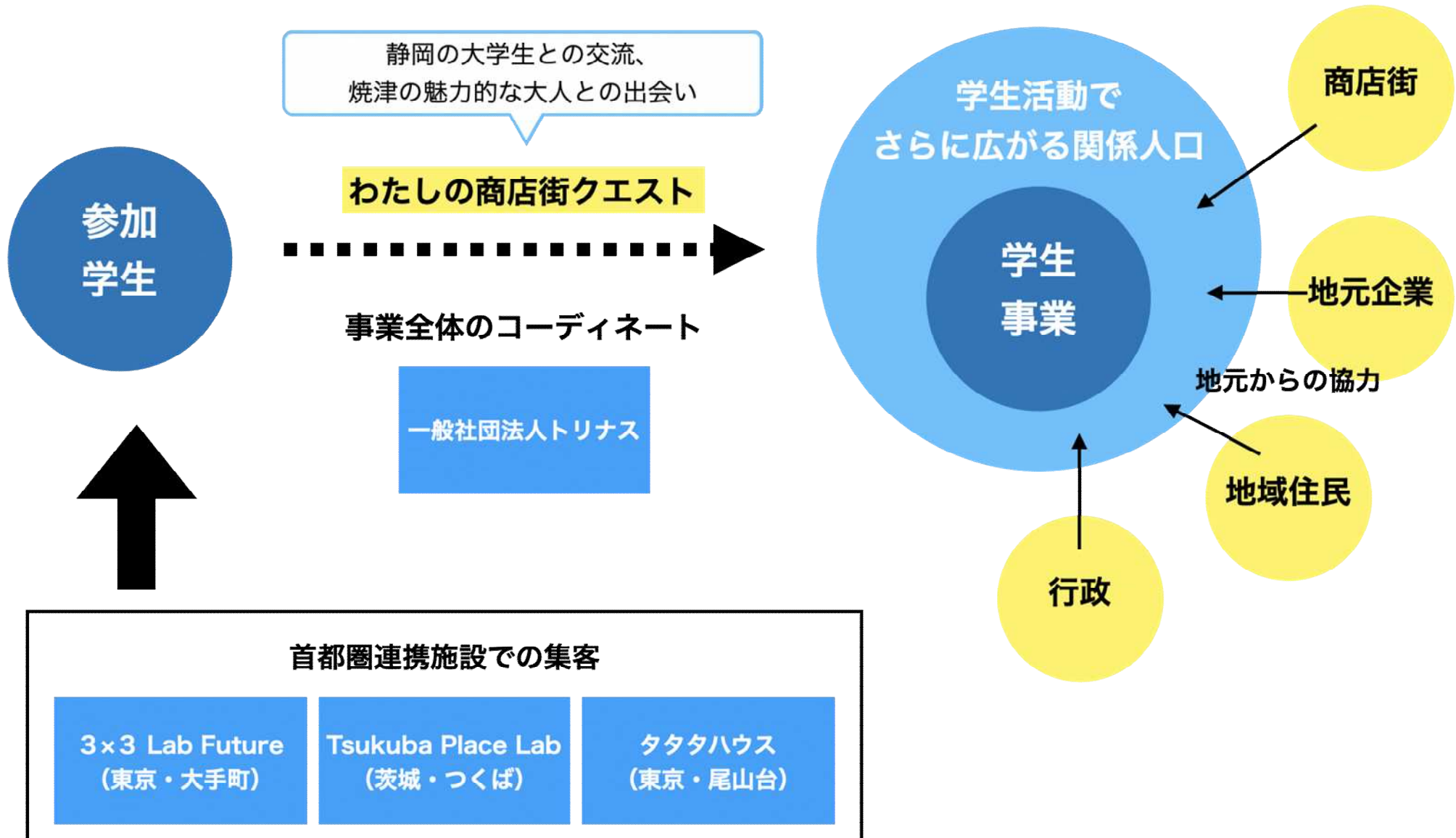
モデルの
概要

主な成果

オンラインプラットフォーム登録者数は38人(R5.6月)⇒96人(R6.3月)と増加。プラットフォームを通じ大学生等へ様々な情報を発信し、「ビジネス創造カレッジ」をはじめとする各種事業の集客について、ほぼ計画通りの成果を得た。
【課題】情報に対する大学生等のレスポンスを上げるため「事業の多様化」「魅力ある事業づくり」が必須。

構築した関係人口創出拡大モデル

一般社団法人トリナス



地域課題
と
関係人口
ニーズ

<地域の課題>

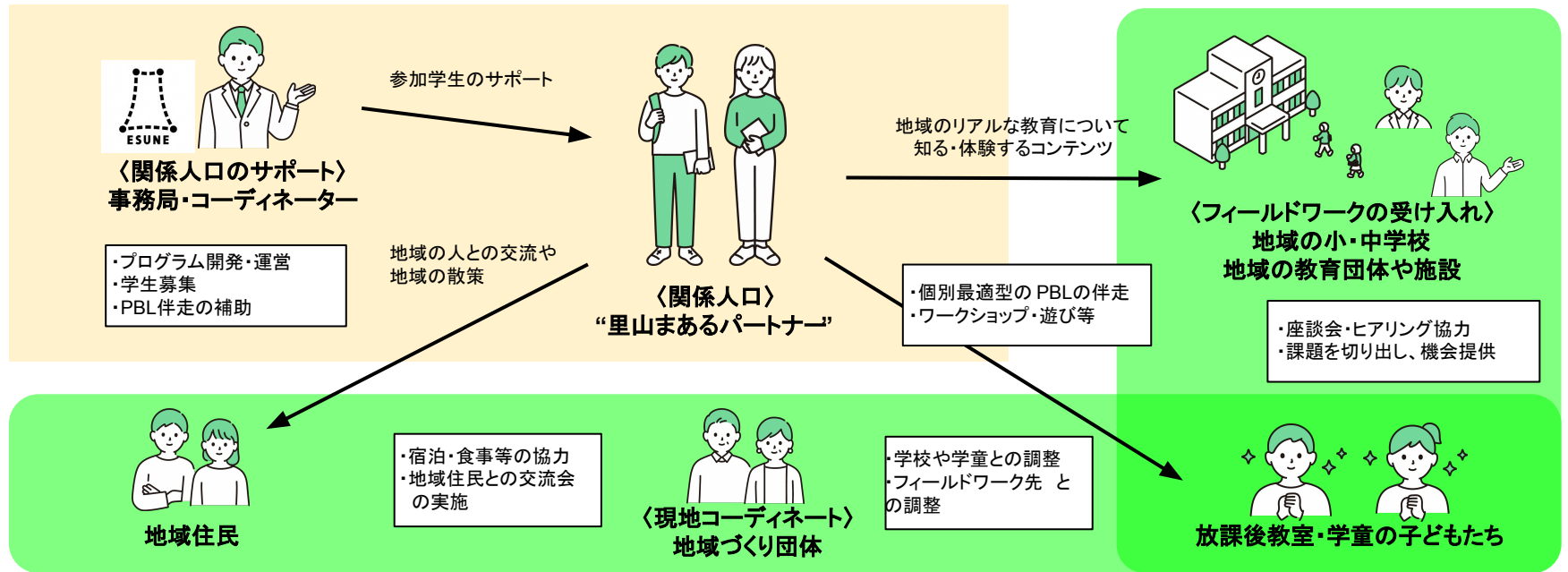
- 地域の概要
少子化や学校の統廃合、子育て世代の転出増、教育の担い手の高齢化 が進行する静岡県内の中山間地域およびその地域づくり団体
- 地域の課題
移住を促進させるために、子育て世代に選ばれる独自の教育プログラムをつくりたい。放課後教室・学童の学び・遊びを充実させたい。

<関係人口のニーズ>

- 子どもと地域の両方にガッツリ関わりたい
 - 中山間地域の教育の課題に関心がある
 - オルタナティブな教育(手法)に興味がある
 - 里山などの自然環境が好き
- 中山間地の子どもの放課後のまなび・あそび・つくるを、地域の人や 保護者と連携して、守り・支える人「**里山まあるパートナー**」

モデルの
概要

<成果イメージ>中山間地域の放課後教室・学童での県外学生による個別最適型のPBLプログラムと、その地域の教育を探求するフィールドワーク合宿「**里山まあるキャンプ**」(9月の4~5日間)



主な成果

- ・コミュニケーションツールの整備やワークシートの作成など、子どものプロジェクト・コーディネートノウハウ(オンライン/対面)の形式化
- ・地域独自の教育地域体験をテーマにした、長期休みの大学生向けの短期合宿プログラムを開発
- ・関係人口にとって顔の見える関係性が生まれ、来年度も同地域でのプログラム実施の可能性と継続的な関わりの意欲の創出ができた

地域課題
と
関係人口
ニーズ

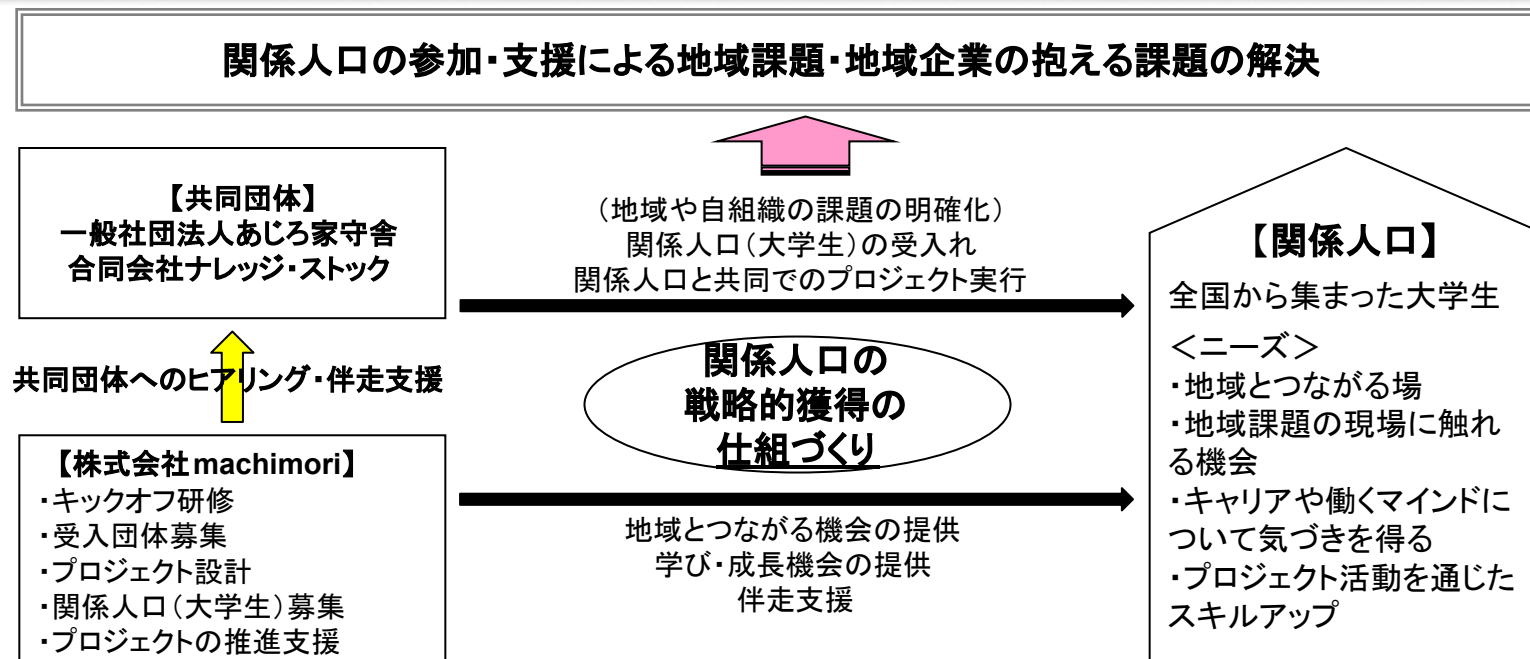
<地域の課題>

熱海市は静岡県内でも一、二を争う課題先進地域である。また、観光業においてもコロナ禍で観光客数は大きく減少し、観光客に頼る地域経済の脆弱性が露呈した。さらに、熱海市の若年層について人口減少が20-30代で最も大きく、また、熱海市で就労している若者についても住んでいない人が多い。

<関係人口のニーズ>

1980年以降続く人口減少により地域コミュニティは衰退し、地域課題解決の関係人口の担い手が現在求められている。熱海市で就労しているが在住はしていない若者が多い課題については、就業機会以外で地域と繋がりや愛着をいかに形成するかが重要である。

地域づくり団体が抱える課題に対して、約3か月の課題解決を目指す長期実践型のプログラムを設計し、学生に参画してもらおう。期間中、現地での集合セッションを3回設定し、各セッション間はオンラインでのチーム活動とした。これらの活動を通して、受入れ団体の課題解決・活性化に貢献する。

モデルの
概要

主な成果

- ・プログラムに対する満足度は高く、学生が地域課題に挑むことで得られる成長や地域への愛着等は、一定得られることができた
- ・7名の参加学生のうち、3名が継続的な関わりを検討する等、関係人口の創出に繋がる事例も生まれた
- ・本モデルを通じて、受入組織に対して事業・組織課題や、地域課題解決にも繋げることができた